人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書　7章12節

BAIKA 1878

2015年
創立137年

2015年（平成27年）
3月17日
第11号

梅花女子大学 チャペル・ニュース Chapel News

発　行
梅花女子大学宗教部
〒567－8578
茨木市宿久庄2－19－5
072－643－6221㈹
072－643－8997
E-mail skb@baika.ac.jp
澤山記念館１階

「茨木ガーデンキャンパス50年
―田中格太郎・とらご夫妻からのめぐみ―」

梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部教員
宗教主事　稲山聖修

今年、梅花学園創立は１３７年目を迎えようとしておりますが、２０１４年と申しますと、本学にとってはもうひとつ重要な節目を迎えます。それは梅花女子大学が創立50周年を迎える年であるということです。梅花学園の創設者は澤山保羅先生であることは、皆さんは講義で学んだことですからご存じでしょう。それでは梅花女子大学の成り立ちについては、皆さんはどこまでご存知でしょうか。

本学の建物にはA棟B棟C棟…と団地のような呼び名が用いられておりますが、実はこの中で最も多くの学生が学んだ建物には山草館との本名があります。この名前は次の歌からとられたものです。

「山くさにうもれしときのいまはは　うめの花とぞ　かおるうれしさ」

この歌を詠んだ、いわば作者こそ、現在キャンパスとして用いているこの土地を全て無償でお献げくださった田中格太郎さんであり、ご伴侶のとらさんとともに、この土地が荒れ地であったころ、黙々と土を耕し、農園と果樹園とした後、１９５８年、茨木キャンプ・サイトとして本格的に用いられることとなりました。田中さんご夫妻が太平洋戦争翌年にこの地に入ってから12年の歳月を経て辿りついた歩みでした。

実はこの田中格太郎さんの歩みを辿ってまいりますと、キリスト教を通じて日本の歴史に大きく貢献した人物が次々と登場してまいります。例えばアメリカ人宣教師ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。ヴォーリズ先生は近江兄弟社学園という学校を設立しただけでなく、メンタームを作り、数々の讃美歌の作詞・作曲を手がけ、東京の明治学院チャペル、関西学院や神戸女学院の建物や同志社の寮、それに心斎橋大丸や京都・四条河原町の東華菜館（とうかさいかん）という中華料理レストランの建物まで設計し、日本の戦後処理にあたってはマッカーサーと日本政府の仲介役まで行った人物でもありますが、歳の頃は17歳から18歳、田中さんはヴォーリズ先生からキリスト教を教わりました。農業を営まれていたご実家の事情で進学こそできなかったものの、田中さんは早稲田大学から政治学や経済学に関する講義録も独学で学びました。昼は汗して働き、夜はろうそくの灯火で学ぶという様を想像してくださればよろしいでしょう。

格太郎さんは23歳で、実家のあった野洲郡兵主（ひょうず）村の村長のお嬢様であった小森さださんと結婚されるのですが、六人のお子さんを授かる中、貧しい暮らしの中でさださんはご病気で天に召されます。その後に当時ナースをされ、さださんを看病したとらさんと結ばれてさらに二人のお子さんを授かり、その後開拓民としてブラジルへ渡りますが、このブラジルでの暮らしの中でまたとらさんとの間のお子さんを一人失います。ご長男が病を得て出征先の満洲から帰国したことを知り、幼い二人

のお子さんを連れて日本に戻りますが、戦争でブラジルへ戻れなくなり家族は太平洋を隔ててバラバラになってしまいます。その中で戦争中であるにも拘わらず自宅を教会に提供し、聖書の集いを開くために用いるといった働きを終戦まで続けます。このようなお話をお聞きになれば分かると思いますが、格太郎さんは非常に潔癖なお人柄で、終戦直後の混乱期に、食料不足から米や野菜を求める闇商人と関わり、金儲けに走っている一部の農家の人々のありさまに非常な憤りを感じ、より一層聖書の世界に沈潜することになります。この潔癖さという点では澤山先生に重なるところがありますが、たくさんの家族を抱えている点では田中さんの苦労、またそれ以上にご家族の苦労はよりリアルに私たちに迫ってきます。

ともあれ戦争が終わって翌年の１９４６年にご伴侶と四人の子どもたちとともに野洲から茨木に移住し、戦争中には軍需工場を建てる予定であった土地を開墾することになりました。格太郎さんは57歳になっていました。当初は土地の所有者からお金の支払いがあったそうですが、この地主が事業の不振を理由に賃金を払わなくなってしまいます。それではどうやって格太郎さんは暮らしたのかと申しますと、例えば畑を作って大豆を育てては豆腐を作り、それを街へ売りに行く。売ったお金を全て暮らしに充てるかというとそうではなくて、聖書を買ってそれを人々に配布します。当然ながら暮らしはいつも貧しくて、その実態については１９４５年生まれのご子息田中和夫さんからわたし自身も聞いたことがあります。それは小学生のころにお昼に学校に持っていく弁当がなくて、あまりに切なくなって校庭でひとりブランコをしていたというお話です。この貧しさがなければ、兵器を作る工場跡は果樹園にはならず、今日の茨木ガーデンキャンパスも生まれませんでした。この中で、戦争が終わってから5年の間に、農地改革があり、この結果格太郎さんが開拓した茨木の土地は全て格太郎さんご一家の資産となりました。これまで「茨木の物乞い」と軽蔑していた人々が格太郎さんご一家に向ける眼差しは、今度は羨みの眼差しへと変化していきます。この大学の裏手には大きなゴルフ場がありますが、戦後の時代が一段落つきますと、今度はレジャー施設を造成するために不動産業者が出入りするようになります。格太郎さんはこのような人々の出入りに嫌になってしまい、次のような言葉を残しています。「あまりにも奇跡としか思えない導きで、神様が私どもに与えて下さったこの土地を自分の利益のために手離すことはできない。もしこの土地を手離すのであれば、それは神様の御用のためにお返しすることでなければならない」。みなさん、物凄い覚悟と決心がありますね。お子さんたちはお昼抜きの暮らしをしているのですから、仮に不動産業者に土地を渡したとしても誰も批判しないはずです。けれどもこの決断と祈りがなければ、皆さんが学ぶこのキャンパスは、レジャー施設かショッピングモールになっていて、季節の花々とともに皆さんがキャンパス・ライフを楽しみ、学びに励む場所は備えられてはいないのです。土地の寄付としては１９５６年に、格太郎さんはご自身の果樹園を梅花学園に無償で献げておられます。この汗への感謝なくして、梅花女子大学の歴史は語ることができません。

さて、ここまでのお話では、格太郎さんととらさんご夫妻は、梅花学園のキャンプ・サイトとなった茨木キャンパスに梅花女子大学が設立されて、さぞや喜んだと思われるでしょうか。実は、格太郎さんは梅花女子大学が開学した１９６４年の春には、すでに天に召されていました。

開学にあたっての式典に参加されていたのは、ご伴侶のとらさんを始めとしたご遺族でした。

わたしはこのお話を締めくくるにあたり、本日引用した聖書の言葉とともに、荒れ野の旅を続けたモーセの歩みを思い起こしました。モーセはエジプトで奴隷の監督を誤って殺してしまった後に、故郷から逃れ、アラビアの地で遊牧民の一家に婿入りを果たします。それからエジプトに捕らわれている奴隷たちを解放せよとの神の命令を受けてヘブライ人を解放しますが、その荒れ野の歩みは40年に及び、ついにモーセその人は約束の土地パレスチナに入ることができませんでした。しかし本当は、実はモーセは次世代の背中に希望を観ていたのではなかったかと思うのです。格太郎さんも同じような希望をキャンプ・サイトに集う生徒に託していました。そしてそれは澤山先生を貫いた神の愛そのものではなかったかと思うのです。神の愛には犠牲があり、痛みが伴いますが、決して絶望に終わることがない。田中格太郎さん・とらさんの働きに恥じないものとなりましょう。

「わかちあおう　クリスマス」

明治学院大学教授・日本カナダ文学会会長・日本ペンクラブ理事
佐藤　アヤ子

明治学院の教育理念は梅花学園と同じDo for others です。

〝人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい〟（『新約聖書』マタイによる福音書7章12節）

今年の梅花学園のクリスマス奨励題「わかちあおう　クリスマス」を頂いた時に、すぐに頭に浮かんだのが、２０１１年3月11日（金）の東日本大震災でした。私が勤務する明治学院には国際平和研究所がございます。世界平和実現の条件を研究し、学内外の平和研究者、ＮＧＯ・平和運動関係者と学際的交流を行うことを目的として、１９８６年に設立されました。この研究所では教養科目として平和・人権・環境をテーマにした授業も開講しており、所員がそのコーディネーターを行っています。

震災が起きた年の秋学期、私はこの大震災の被害を誰もが忘れず、また、風化させない為に、この震災について授業を行うことにしました。秋学期15回の授業で、毎回ゲストをお招きしてお話を頂きました。現地にいち早く入り支援活動を始められたカナダ大使をはじめ、現地で取材されてきた新聞記者やカメラマン、亡くなられた方々を弔う事はもちろん、炊き出しのボランティア部隊をずっと受け入れて来られた石巻の僧侶等現場に関わった方々に講義を受け持って頂きました。３００人以上の学生がこの講座を履修し、そして毎回学生たちが熱心に耳を傾ける。中にはゲストの方の話に涙を流す学生もいました。私は長い間、明治学院に奉職しておりますが、このように熱心に学生が授業に集中する経験は珍しかったです。この悲惨な災害の痛みを誰もが〈分かち合おう〉との共通する思いがあったのではないかと思います。因みに、ボランティアへの関心は、１９９５年の阪神・淡路大震災を契機に広がったと聞いております。

震災が起きた11月、私が会長を務める日本カナダ文学会の全国大会が5か月遅れで開催されました。全国大会にはカナダから作家を招聘します。２０１１年の大会は、「カナダの児童文学の動向」がシンポジウムのテーマでした。この大会には、カナダの児童文学作家のデボラ・エリスさんをお招きしました。デボラさんは１９６０年生まれの今年、54歳です。カナダ、オンタリオ州生まれ。若い頃から、反戦、女性解放のための活動を続けています。作家として、アフリカや、イラクやアフガニスタンなどの途上国で生きる子どもたちを主人公とした感動的な作品を次々と発表し、子どもたちが背負わされたさまざまな問題に、世界中の読者に関心を促しています。カナダでは最高の文学賞であるカナダ総督文学賞、ルース・シュワルツ賞の他、内外の多くの賞を受賞しています。日本語訳も多く出版されており、戦乱のアフガニスタンを生きぬく少女を描いた三部作『生きのびるために』、『さすらいの旅』、『泥かべの町』（以上、さ・え・ら書房）は、17か国語に翻訳されています。また、今日までに１００万ドル（一億円）以上の印税をストリート・チルドレンやアフガニスタンの女性の為に活動するＮＧＯに寄付されています。そして、ご自身は大変質素な生活をされています。17歳の頃より、非暴力、平和運動、女性解放、反戦等に参加され、のちにトロントの精神障害者の施設でカウンセラーとして働く傍ら、作家活動、アフガン難民を支援するＮＧＯの中心人物として活躍されています。

私は、このエリスさんが来日の折、一緒に東松島市と福島の被災者の仮設住宅を訪れました。仮設住宅では小中高生たちのいるご家族を対象に懇談会を行いました。その時のあるお母さんのお話にとても感動しました。津波に襲われた時、高校生の息子さんはある建物に逃れ、難を逃れたということでした。そして、同じようにそこに逃れたお年寄りたちを守り、津波で流れてきたコンビニの袋に入ったチョコレートなどを水の中から集め、飢えと寒さをしのいで助かりました、と。全くのだめ

息子と思っていた子供を見直したということを話してくださいました。また、ご主人とお子さんを亡くされた初老の婦人の、全く一人ぼっちになってしまい、どうしてよいか分からないが、日本の津々浦々から多くのボランティアが来てくださり、またしてやカナダの作家まで訪問してくださり、自分は奈落の底に落とされたが、その心の温かさを受けとり、ありがたい、ありがたいとおっしゃる姿に、慰問に伺った私たちが逆に励まされました。あの大震災は、計り知れない傷跡を多くの被災者たちに残しておりますが、多くの日本人に、苦悩、痛み、暖かさ等を〈分かち合う〉機会を与えたのではないかと思います。私の親類でも残念ながら3人が犠牲となりました。

クリスマスの頃になると、よく耳にする物語があります。イギリスの文豪チャールズ・ディケンズの名作『クリスマス・キャロル』です。このお話ほど、〈分かち合う〉心を教えてくれる作品はないと思います。

主人公エベネーザ・スクルージは初老の商人で、冷酷無慈悲、エゴイスト、守銭奴、人間の心の暖かみや愛情などとはまったく無縁の日々を送っている人物です。ロンドンにスクルージ&マーレイ商会という金貸し業を営み、薄給で書記のボブ・クラチットを雇い、血も涙もない、強欲で、金儲け一筋の商売を続け、隣人からも、取引相手の商人たちからもことごとく嫌われています。7年前の共同経営者であるジェイコブ・マーレイの葬儀でも、お金を出すことを渋ります。クリスマスイブの晩、商会をあとに自宅に戻ったスクルージは、7年前に亡くなったマーレイの亡霊の訪問を受けます。マーレイの亡霊は、金銭欲や物欲に取り付かれた人間がいかに悲惨な運命となるか、生前の罪に比例して増えた重たい鎖にまみれた自分自身を例としてスクルージに諭し、スクルージが自分以上に悲惨な最期を回避し、新しい人生へと生き方を変えるため、3人の精霊がこれから彼の前に出現すると伝えます。

第一の亡霊は、スクルージに彼の過去を再現して見せます。眩く輝く頭部に蝋燭の火消し蓋のような帽子を被った、幼くも老成した表情をした霊です。スクルージが忘れていた少年時代に彼を引き戻し、孤独の中で、しかし夢を持っていた時代を見せます。

次に出現するのは第二の亡霊で、スクルージの現在を見せます。彼は、スクルージをロンドンの様々な場所に連れていき、貧しいが、明るい家庭を築き、ささやかな愛で結ばれた書記のクラチットの家族の様子、伯父の参加がなかったことを惜しみながらも知人達と楽しい夕食会をしているスクルージの死んだ妹の息子フレッドの姿を見せます。またクラチットの末子ティムが、脚が悪く病弱で、長くは生きられないことを示します。第二の精霊と共に世界中を飛び回って見聞を広めたスクルージは、疲れ切って眠りにつきます。

そして再度目が覚めると、そこには真っ黒な布に身を包み、一本の青白い細い手だけを前に差し出した、不気味な第三の亡霊がスクルージを待っています。この亡霊はスクルージに彼の未来を見せます。スクルージは、非常に評判が悪い男が死んだという話を聞きます。そして、未来のクリスマスには自分の姿がありません。評判の悪い男のシーツに包まれた無惨な死体、その男の衣服まではぎ取る女。また、盗品専門に買い取りを行う古物商の老人や、その家で、盗んできた品物を売るために老人と交渉する3人の男女のおぞましい様子を見せられます。この時点ではスクルージは、その死んだ男が誰なのかを確認することはできません。また、クラチットの末息子ティムが、両親の希望も空しく世を去ったことを知ります。そして荒れ果てた墓場で、見捨てられた墓碑に記されていた自分の名をスクルージはみます。スクルージは激しい衝撃に襲われます。

しかし、クリスマスの始まる夜明けと共に、彼が経験した悪夢のような未来をまだ変える事が出来る可能性があることを知ります。彼は亡くなったマーレイと3人の亡霊達に感謝と改心の誓いをし、クラチット家に御馳走を贈り、再会した慈善活動家の紳士達に寄付を申し出、フレッドの夕食会に出向きます。そしてその翌日、クラチットの給料を上げるとともに彼の家族への援助を決意します。スクルージは誰にも心を開くことを学び、そして、彼の富を含み、〈分かち合うこと〉を学びます。のちにスクルージは、「ロンドンで一番クリスマスの楽しみ方を知っている人」と言われるようになるのでした。守銭奴のスクルージは、自分の「過去、現在、未来」の姿を見せられることによって〈分かち合う〉喜びを知ったのです。

「梅花学園の歴史を創った3人のエレガントな人々」

総務部付資料室職員　安田 行秀

本日は明治時代の梅花女学校の設立から第二次世界大戦後の梅花学園復興の歴史の中で、大変なご尽力をいただいた成瀬仁蔵先生、コルビー宣教師、実生（みばい）すぎ先生の3人の方々をご紹介します。明治という古い時代に梅花女学校が開学し女性に優れた教育を提供されてきた先人の先進的なお働きのもとに現在の梅花学園があると言うことを知ることにより、皆さんに大学で学ぶことの意味を感じていただければと考えてお話させていただきます。

成瀬 仁蔵 先生
（1858～1919）

成瀬先生は梅花女学校の創立者澤山保羅先生とともに開校準備から運営までの実務を取り仕切った創立メンバーの1人でした。その経験をもとに新潟でも女学校を設立され、その後に東京で「日本女子大学校」を創設されました。成瀬先生は1858年に山口県吉敷というところで生まれましたが、澤山先生と同郷で6年後輩になります。父親が私塾を開いていたので、5歳の時に澤山先生も通っておられた吉敷の郷校である憲章館に入り漢学の勉強をします。1868年に明治維新が起こり、藩が消滅すると同時に憲章館が廃校になり、父親の私塾の教育を手伝うことになりました。17歳の時に山口県教員養成所に入所して1年で卒業して小学校の教員になりました。1877年の夏に、アメリカ留学から帰ったばかりで妹さんの病気見舞いに帰郷していた澤山先生と運命的な出会いをします。アメリカ留学から帰ったばかりの澤山先生が現れて「人生の問題解決の鍵はキリスト教にあり」と諭された成瀬先生は強く共感し、その秋には教員を辞めて大阪に出て、11月には浪花教会で澤山先生から洗礼を受けておられます。翌年1878年の梅花女学校の設立に参画され、教員経験のある専任教師として国語・漢文科目を担当し、教務からその他の雑務を一手に引き受けました。梅花の教育の基礎は成瀬先生によって築かれたといっても過言ではありません。梅花女学校は、日本人の信徒により設立されているので、アメリカの宣教師団体や外部の人からの資金援助は受けていませんでした。生徒が増え始めてくると教室が足りなくなり校舎建築に多額の費用が必要になり、やむを得ず外部の資産家から援助を受けることになったのですが、成瀬先生は信徒以外の援助は受けるべきではないという主張を貫き、梅花女学校を退職してしまいます。布教に専念することになった成瀬先生は、奈良の郡山教会で澤山先生から按手礼（牧師になるための儀式）を受け布教活動に励みます。1886年新潟に赴任し新潟教会の牧師になりますが、この地で新潟女学校を開校して校長に就任します。しかし新潟での経験から知識不足を感じた成瀬先生はアメリカ留学を決意します。1891年にアンドーバー神学校に入学し社会学者タッカーに師事し、強く影響を受けました。翌年クラーク大学に移り女子教育について本格的に研究しますが、学位を取るために4年間も在学する時間的な余裕はなく、各地の女子大学や社会事業施設を見学した後に1894年1月に帰国します。その年の3月に梅花女学校の校長の要請を受け就任しています。アメリカで学んだ最新の知識を生かして家政部に商業科を設置し、外国電信、外国商業通信、速記といった時代の先端を行く教育を行いました。成瀬先生はこのような改革をもとに、女子大学設立へ発展させようとされましたが、あまりにも先進的すぎて事務当局や他の教員がついていけませんでした。そのため1896年に女学校校長を辞任し女学校も退職されて、独自に女子大学校設立を目指すことになります。女子大学設立運動の結果、大同生命創立者の広

岡浅子氏の尽力により時の政財界の大物の後援を受けて1901年に日本女子大学校が東京目白で開校されることになりました。山口県吉敷からカバン一つで大阪へでて来られて、24年後には女子大学校設立までにいたるという本当に偉大な働きをされた方だと思います。

ミス コルビー 宣教師
(1847～1917)

コルビー宣教師は梅花女学校創立の翌年1879年に赴任されました。創立時におられた宣教師の方々は教会に所属しキリスト教の伝道活動をしつつ梅花女学校の教員をしておられたのですが、コルビー宣教師は女学校の教育と礼拝のためだけに来られた専任宣教師でした。1847年ニューハンプシャー州に生まれて、17才の時に洗礼を受けられたのですが、その時に神様から「外国の地で奉仕しなさい」という声を聞かれたそうです。マサチューセッツ州のマウントホリヨークカレッジという全米のトップクラスの女子大学に入学し、看護学を専攻されておられます。マウントホリヨークはもともと女子神学校であったので、宣教師としてのトレーニングも受けられました。卒業後は看護学を教えながら、家庭伝道活動をして充実した生活を送っていました。しかし1878年31才時に神様の声に従って、アメリカンボードに宣教師になるための書類を提出し、大阪の梅花女学校への赴任を命じられます。梅花女学校で女学生に接するうちに、日本女性の素質のすばらしさ、それにもかかわらず女性の地位がアメリカに比べて極端に低いことに憤慨され、日本女性の社会的な地位向上のため梅花の教育に一生を費やされることになります。1916年までの37年間梅花女学校、梅花高等女学校で英語教育を担当され、五代に渡る歴代校長を支えていただきました。また、梅花女学校に通う経済的に恵まれない学生の面倒もみられていました。その中の一人が次に紹介する実生すぎ先生です。コルビー宣教師は退職の翌年1917年に亡くなられて、神戸の外人墓地に眠っておられます。

実生 すぎ先生
(1891～1969)

実生先生は兵庫県津名郡五色町(淡路島)の材木商の8人兄弟の4女として生まれておられます。五色町の町長さんがアメリカに行かれた時の話を聞いて、実生先生が「女でもアメリカに行くことができますか」と聞いたら、全く返事もしてくれなかったことに腹を立て「今に見ていろ、女でも必ずアメリカに行ってやる」と子供ながらに強く心に誓ったということです。尋常高等小学校を卒業すると、実生先生はアメリカに行くために高等教育を受けたいという希望を持ち大阪に出ることにします。大阪にいる叔父さんの世話になり最初は郵便局に務めます。その近くに浪花教会がありそこに行けば無料で英語が勉強できると聞き熱心に通いました。浪花教会には梅花女学校の教頭先生もおられて、実生先生が熱心に通っている姿を見てキリスト教への道を歩んでもらいたいと思い梅花女学校の事務職員として働いてもらうことになります。事務職員といっても先ほど申しましたコルビー宣教師の書記の仕事で、空き時間には梅花女学校の授業に出て勉強できるという恵まれた条件でした。向学心の旺盛な先生は4年で女学校を卒業して、さらに神戸女学院専門部英文科に進まれます。卒業後は神戸女学院で教鞭を執られて1944年まで勤められます。1916年にはアメリカのミルスカレッジという女子大学に留学して子供の頃の夢を実現しておられます。その後ミシガン大学に留学して博士号も取得されました。第二次世界大戦後に梅花学園を復興できるのは実生先生しかおられないということで、第8代学園長にご就任いただきました。1950年には梅花女子専門学校英語科の後身としての梅花短期大学設立に尽力され、実生先生が初代学長に就任されておられます。戦後梅花学園が存続できたのはまさに実生先生のお力によるところが大きいと言えます。

以上3人の方々のお働きを見てきましたが、大きな志を持って梅花学園の発展のために献身的な努力を注いでいただいたおかげで現在の梅花学園があるのだと解りこの3人の方々に深い感謝の意を表してお話を終わらせていただきます。

「自分の意志で生きるということ」

総務部財務グループ職員　木村　馨

今日は、二つのテーマについてお話ししたいと思います。

まずは「信仰をもつということ」について。私自身、特に信仰する宗教はありませんが、高校・大学時代を梅花学園と同じ宗派のキリスト教学校で過ごし、また現在は梅花学園に勤めることとなり、キリスト教にはとても深い縁を感じています。とはいうものの、高校入学までは宗教そのものになじみがなかったこともあり、入学当初、週2回の礼拝やキリスト教学の授業を受けていても、あまり興味を持てませんでした。興味を持ち始めたきっかけは高校3年生の時、キリスト教学の先生との出会いでした。当時30歳前後とお若く、生徒とも友達のように付き合われる方で、キリスト教の洗礼を受けているというイメージが持てない先生でした。授業もそれまでの先生方と違い、「キリストの行ないや教えを知る」だけではなく、「知ったうえでどう感じるか、自分自身の人生にどう活かしていくか」を考える形でした。聖書の見方ががらっと変わったのを覚えています。その頃、私は家族のことで悩みを抱えており、とても辛い時期でした。授業中に暗い顔をしていたので、先生も気付いていたのだと思いますが、特に干渉はせずに見守っていてくれていました。思い切って相談した時も、ただ黙って私の話を聞いてくれましたし、少し無茶なことをしたときも、怒らずに受け入れてくれました。その時、「きっと私がどんなに馬鹿なことをしても、人を傷つけてしまっても、自分自身を嫌いになっても、その先生だけはいつどんな時でも私を受け入れてくれる。」そんな気がしたのです。そういう居場所があるという安心感や信頼、もしかしたらそれが「信仰を持つ」ということなのかもしれないと思いました。先生にとってはそれがたまたまキリスト教であり、私にとっては先生だったのだと思います。皆さんにはそのような存在があるでしょうか。ある方はその存在の大きさに改めて感謝をし、大切にしてください。ない方も、せっかくキリスト教主義の学校に入学したのですから、キリスト教学の授業やチャペルアワーの時間を通じて、「信仰を持つ」ということについて考えてみてはいかがでしょうか。

次に「自分の意志で生きるということ」について。皆さんには今、「やりたいこと」や「なりたいもの」が明確にあるでしょうか。何のために勉強し、何のために働き、どんな毎日を過ごし、将来どうなりたいかなど、目標のようなものはあるでしょうか。こういう問いかけ方をすると、自信を持って手を挙げられる人は少ないのではないでしょうか。私自身、今でこそ目指すものはありますが、大学への進学や就職活動などにおいては明確な目標が持てず、周囲と比べては落ち込んだり焦ったりしたものです。

人は規則や制約があると反発し自分の意見を主張しますが、いざ何でも自由にして良いといわれると、意外と何をしていいのか分からなくなったりするものです。選択肢が多ければ多いほど、自分がどうしたいのか分からなくなり、敢えて制約のある方へ向かって行ったりもします。これも高校生の時のことですが、私の通っていた高校は制服がなく自由な校風で、奇抜なファッションを楽しむ生徒もいれば、敢えて制服のようなスタイルで登校する生徒もいました。他校の制服をそのまま着ている生徒が問題になった頃、学校で一番怖くて厳しい先生に言われた言葉がとても印象に残っています。「自由には責任がつきものだ。何をしても良いということではなく、自分で選んで決めたことには、自分できちんと責任を取りなさいということだ。責任の取れないようなことは絶対にするな。」という内容でした。それまで自由奔放な振る舞いをしてきた生徒たちが、一気に落ち着くこととなった出来事でした。とても厳しい先生でしたが、それだけ生徒のことを真剣に考え、教育してくださっていたのだと、今ではとても感謝しています。

平和な日本に生まれ、恵まれた自由な環境の中で、本当に「やりたいこと」や「なりたいもの」を見つけるのはとても難しいことです。またその通りに人生を歩むのは更に難しいことだと思います。社会に出て仕事をし、さまざまな人と関わってい

く中で、より一層そう感じるようになりました。ではそんな中でどのようにして「自分の意志で生きる」のか。私がお伝えしたいのは、特別なことではありません。日々の生活の中にある自分の意志にしっかりと目を向け、自分を知り、自分は自分の意志で生きているということを実感して欲しいということなのです。これは一つの精神論ですが、物事の捉え方ひとつで、人生は180度変わります。例えば、何か不本意なことをしなければならない時、「親に言われたから」、「友達が行くから」、「上司に言われたから」など、受け身な考えで周囲のせいにしてしまいがちではないでしょうか。ですが、そこにも必ず自分の意志が働いているのです。「親の言うことに従う」、「友達と一緒に行動する」、「上司に従う」ということを自分自身で選択したのです。他の選択をすることによって起こりうる出来事に立ち向かうよりも、我慢して従う方を選んだということなのです。それにもかかわらず文句を言い、人のせいにするのはただの甘えです。だからといってただ反発するだけでは、それもまた甘えでしかありません。反発するのであれば、そうすることで起こりうる出来事を想像し、納得したうえで行動を起こし、そして結果はきちんと受け入れなければなりません。自分の意志で行動するのであれば、責任を持たなければならないのです。

日々の一つ一つの出来事はすべて自分の選択によって成り立っています。人は皆、自分の思い通りに生きているのです。誰のためでもなく自分のために、自分自身の意志によって生きているのだということに気付くことができれば、より充実した日々を送れるのではないでしょうか。そして、そんな日々を重ねることでようやく、本当に「やりたいこと」や「なりたいもの」が見えてくるのかもしれません。そのときは自信を持って「自分の意志」で前に進んで欲しいと思います。

梅花学園のスクールモットーにもなっている聖句「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい（マタイによる福音書 第7章12節）」が伝えようとしているのも、同じようなことなのではないかと思います。この聖句は黄金律と言われるキリスト教の根本原理として尊重されるルールですが、他の宗教にも共通して存在する考え方です。他の宗教では「人にされたくないことは、人にするな。」という表現のものが多いのですが、キリスト教においてはより能動的・積極的な言葉で表現されています。この言葉を素直に受け取ると「人に奉仕しなさい。人の為になるようなことをしなさい。」となります。ですが感情は人それぞれで価値観も違いますから、相手を喜ばせるために取った行動も、逆効果になるという場合もあります。また、見返りを求めてしまい、望んだとおりの結果にならなかったときに相手を咎める気持ちが生まれたりもします。だからこそ、主観的ではありますが「自分」が人にしてもらいたいと思ったことを、「自分自身の意志」で行なうことが大切なのです。すべては自分の意志で決めて行動したことであり、その結果相手がどういう受け取り方をするかは、たいした問題ではないということなのです。そういった自律した考えを持ったうえで与えられる人になりなさいとキリストは伝えたかったのではないでしょうか。

梅花の創立者である澤山保羅先生も、誰のためでもなく自分自身の為に「自律した女性」になって欲しいと願い、この聖句を大切にされていたのではないかと思います。私自身も梅花学園の一員として、そういう女性になれるようこれからも努力していきたいと思います。

学園創立137周年 記念礼拝及び 澤山保羅先生 墓前祈祷会

2015年1月18日（日）　澤山記念館チャペル（右）・大阪市設南霊園（左）

茨木ガーデンキャンパス
校門クリスマス・リース

クリスマス・ツリー点灯式

2014年11月20日（木）
澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下

大学（文化表現学部・心理こども学部心理学科）
クリスマス礼拝

2014 年 12 月 18 日（木）
澤山記念館チャペル

学園クリスマス標語

―２０１４年度 クリスマス標語―
「わかちあおう　クリスマス」

大学（看護学部・食文化学部・心理こども学部こども学科）
クリスマス礼拝

2014 年 12 月 15 日（月）
澤山記念館チャペル

クリスマスイブニング2014

「クリスマス礼拝」
2014年12月20日（土）
澤山記念館チャペル

「ごあいさつ」

梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部教員
宗教主事　稲山 聖修

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」
マタイによる福音書 7章12節

小生こと稲山聖修は日本基督教団泉北ニュータウン教会からの招きを受け2015年3月をもちまして梅花女子大学を退職します。11年間の本学での勤務。澤山保羅先生の教えとスクール・モットー、そして田中格太郎・とらご夫妻によって献げられた茨木ガーデンキャンパスでの働きの中で、学生・教職員・そして「チャペル・ニュース」読者の皆様のお祈りにより、稲山自らも育てられました。11年にわたる宗教部の歩みを顧みるに、年ごとの大学組織再編の大波の中でひときわ輝くのは事務職員の働き。このわざなしには宗教主事の重責は担い得ませんでした。また、学生のキャンパスライフにキリストの愛が香るためご協力、お支えを賜った方々には心よりお礼を申しあげます。ありがとうございました。

季節ごとの花が咲き風薫るキャンパスは絶景です。いつまでも学生の笑顔が絶えないよう、皆様にはぜひとも今後とも本学を覚えお祈りください。

聖書を読み祈る「オリーブのつどい」（中央・稲山先生）

（知能に重い障がいを持つ方々の施設）止揚学園を訪問して「自　立」

看護学科1年生　石濱 なぎさ

8月25日月曜日、養護施設・止揚学園を訪問させて頂いた。のどかな田舎に住んでいる大家族、といった印象である。職員の方は、家族同然だから、と一緒に住んだり、お近くに住んだりしている。お風呂場の壁には、施設長さん自らがお描きになった楽しそうな絵が。食堂の壁にはあの〝はらぺこあおむし〟で有名なエリック・カールさんの原画が飾っており、ファンタジーの世界へと吸い込まれていく。

洗濯は一人一人の日々の変化が感じとれるもの。不安定な時は服の同じ所を握りしめて皺ができ、それに気付けるようまずは洗濯板で手洗いをしてから、洗濯機へ。服にはすべて名前の刺繍を。縫っている間は一人一人のことを思っていられる大切な時間。

ご飯は、スライサーやだしの素などを使うと不安定な人が出てくる。手っ取り早い便利なものには、心が込められていないから、時間がかかってもみんなのことを思いながら、じっくりと愛情や手間をかけて作っている。毎日みんなで交替して、朝晩犬のお散歩へ。みんな表情が穏やかである。すべての行動は、みんなの笑顔のために。職員の方の言葉―結果を出すことが求められている世の中では、彼らは良しとされている結果を出せないかもしれない。自立とは普通自分のことを自分でできる人のこと。だけど彼らのように、他者を思いやって支えられる人が本当の自立だと思うんです―。家族と生活の中の一つ一つを丁寧に暮らし互いに支え合って生きていく。それがどんなに大切で幸せなことか。幸せはなにも特別な日のことではなく、何気ない毎日の中にあるのだ。

小梅祭　学生礼拝　チャレンジ&エレガンス

「エンカレッジ（勇気）」

日本文化創造学科4年生　中嶋　楓

―お話とピアノ演奏―

日本文化創造学科4年
中嶋　楓

苦手分野に取り組む勇気について話します。皆さん苦手なものがあると思いますが、私は勉強が苦手なんです。でも今、個別指導塾で講師をしています。私が担当しているのは二人で、両方とも中学生の数学。一人は中学校2年生、もうひとりは中学校3年生です。先ほど勉強が苦手だと言いましたが、その中でも数学は超が付くほどできないんです。どれくらいできないかと言いますと、中学校3年間のテストで50点にいったことありません。最高得点は49点。さて、何で数学を教えようと思ったのか。それは、今担当している中学校2年の生徒さんから「先生に教えてもらいたい」と言ってくれたことがきっかけです。その生徒さんを初めて担当したのが去年の冬期講習で、数学ではなく社会の歴史を担当したのですが、最初はなかなか心開いてもらえず…。私は歴史を説明する時、その時代の舞台となっているアニメや漫画を使うのですが、その時にアニメの話をしたら、その生徒さんは「先生、アニメ好きなんですか！」と目を輝かせました。私としては「あれ、何かスイッチ入れた？」と思ったんですが、どうもその生徒さん、アニメや漫画が好きらしく、なかなか話出来る人がいなかったそうです。「先生、また授業して欲しい」と言われたのですが…いかんせん、その生徒さんが来てる日は、私が授業に出られない日で、何よりも数学をとっているので、難しいと思ってました。今年になってから、時間に余裕が出たので「この生徒さんのために数学を頑張ろう」と思って、教室の責任者に交渉しました。最初はちょっと…と断られてましたが、何回か粘って9月から教えることになりました。個別指導塾の強みは「自分のお気に入りの先生に教えてもらえること」です。でも、よく考えてみてください。生徒さんが「この先生に教えてもらいたい」と申し出ることはありますが、先生が「この子を教えたいんですが」と言うことは聞いたことありませんよね。自分でも、大胆なことをしたなと思っています。私の最近の課題は、関数と図形です。両方とも中学校の時苦手な所でした。特に図形の証明の問題が…。中学校の時は証明の問題で「何でこの形になるのか」の部分を書かず、仮定と結論しか書いてませんでした。少しでも説明できるようにと、授業の日は授業の3時間ぐらい前から来て、予習をしています。数学ってできるようになったら楽しいと思いました。「自分は出来るのね！」と自信につながります。苦手な分野に取り組む勇気を持って、自信に繋がったらと思います。

―司会―

情報メディア学科1年
金山紗耶

2014年（平成26年）度　献金及び献品報告

いつも宗教部の諸活動にご協力頂きありがとうございます。今年は下記の東日本大震災の被災地（日本基督教団東北被災者支援センター・エマオを通して被災地に送金）・施設・団体に、集めた献金・献品を送付致しました。

《献金送付先》

＊前期献金＊

・東日本大震災の被災地	14,000円
・パンダ園	14,000円
・止揚学園	14,000円
・救世軍希望館	14,000円
・大阪水上隣保館	14,000円
・レバノンホーム	14,000円
・振込手数料：郵便局	520円
合計	84,520円

＊後期 クリスマス献金＊

・東日本大震災の被災地	13,700円
・救世軍希望館	13,700円
・レバノンホーム	13,700円
・止揚学園	13,700円
・釜ヶ崎医療連絡会議	13,700円
・振込手数料：郵便局	390円
合計	68,890円
総合計	153,410円

《献品》・【日本キリスト教海外医療協力へ】海外国内切手 約2kg650g

・【救世軍希望館へ持参＊炊き出し用として】

【食料品】米…25kg820g（5kg×3個+10kg+820g）／梅干…2パック
花かつお…1パック／ゆであずき…1缶／切りだし昆布…1パック
京番茶（ティーパック）…1袋（80袋入り）
味付のり…2パック／しょうが漬け…1パック

【日用品＆衣類】まがるストロー…1袋（60本入）／スカーフ…2枚
中国シルク…1枚／パジャマ…2着
フェイスタオル…1箱（2枚入り）
オオバンストール…1枚／衣類…9着

宗教部一年の歩み

宗教部はチャペル・アワー（礼拝）を守ることに重点をおいた一年だった。チャペル・アワーは学園の建学の精神を伝える重要な役割を担っている。宗教部は、心に残るメッセージを伝えることに全力を注いだ。

4月

入学式

4月1日（火）梅花女子大学・梅花女子大学短期大学部は午後1時より、澤山記念館講堂で、入学式が行われた。

聖書を読み祈る「オリーブのつどい」の開催

4月9日（水）より、毎週講義期間中の火曜日に教職員のための「オリーブのつどい」、水曜日は学生のための「オリーブのつどい」をお昼休みにチャペル北側控え室で開催した。火曜日は旧約聖書創世記、水曜日は新約聖書マルコによる福音書を輪読し、祈りの時間を持った。

「メディテーション・アワー―黙想の時間―」と「アロマの部屋」の開催

澤山記念館チャペルで講義期間中の火曜日・金曜日のお昼休みに静かに音楽を聴きながら祈りの時間と空間を持つ「メディテーション・アワー―黙想の時間―」を設けた。

また、チャペル南側では講義期間中のお昼休み火曜日と金曜日に「アロマの部屋」を設けた。「アロマの部屋」は週ごとに香りが変わり、読書すること（持ち込みも可能）も出来る。

学生・教職員による「ガーデニングのつどい」の開催

4月25日（金）より宗教部にて、学生・教職員による「ガーデニングのつどい」を開催した。

6月

「花の日」礼拝「花の日」コンサートを開催

6月2日（月）・6月12日（木）午後1時からテノール歌手の竹内直紀先生をチャペルにお招きして「花の日」礼拝「花に寄せて～歌の力～」と題して世界中の花の歌とお話しをして頂いた。

アンネ・フランク生誕85年記念アンネ・フランク展～花に寄せて～

澤山記念館1階北側控え室で「アンネ・フランク展～花に寄せて～」を6月2日（月）～6月12日（木）迄、開催した。アンネ・フランクの生涯、学生・教職員の「平和への祈り」の寄せ書き、「ガーデニングのつどい」会員12名による個性あふれるガーデニング作品を展示した。

青梅の収穫と販売

今年も、学内で実った青梅を有志の教職員・学生ボランティアで収穫し販売した。毎年、5月末～6月中旬辺りの適当な時期に収穫し販売しているが、今年は6月3日（火）～6月4日（水）に収穫した。売上金の27，250円は、前期献金に充当。

身障者による美術作品の販売

宗教部では6月と11月に「口と足で描く芸術家協会・美術作品」の注文を受け付け、全額、同協会に納めている。この収益は障がい者の生活費、奨学金として使われる。6月の売り上げは、10，380円。11月の売り上げは、21，140円。合計の売り上げは、31，520円。

7月

白百合の君　山川登美子生誕135年記念チャペル・アワー「明星の歌人 山川登美子」を開催

山川登美子の生誕135年を記念して7月17日（木）・7月28日（月）午後1時から朗読家として活躍されている馬場精子先生をチャペルにお招きして、白百合の君山川登美子生誕135年記念「明星の歌人山川登美子」と題して朗読とお話しをして頂いた。

生誕135年記念「明星の歌人　山川登美子」展を開催

生誕135年記念「明星の歌人　山川登美子」展を7月17日（木）～8月13日（水）迄、澤山記念館1階北側控え室で開催した。多くの方々に見学して頂いた。

8月

「止揚学園」訪問

今年は、8月25日（月）に、教職員・学生の合計8名で訪問した。（10頁参照）

11月

小梅祭「学生礼拝」・「ガーデニングのつどい」・ショップ「オリーブ　ガーデン」の開催

11月8日（土）午前11時より「学生礼拝」をチャペルで行った。お話は「エンカレッジ（勇気）」と題して、女子大学日本文化創造学科4年の中嶋　楓さんにお話しして頂いた（11頁参照）。2014年NHK大河ドラマ『軍師官兵衛』より官兵衛紀行I他、3曲のピアノ演奏もあった。司会は情報メディア学科1年の金山紗耶さん。奏楽はオルガニストの水間　泉先生。

また、12時から、学生会館2階で「ガーデニングのつどい」の学生・教職員の皆さんによるショップ「オリーブ　ガーデン」にて、手作りの絵葉書や、クリスマス・リース、ポプリ等の小物を販売した。

クリスマス・ツリー点灯式

11月20日（木）午後5時50分～6時5分まで、クリスマス・ツリー点灯式を澤山記念館正面玄関南側ヒマラヤ杉の下で行った。日本文化創造学科4年の中嶋　楓さんのキーボードによる前奏でクリスマス・ツリー点灯式は始まった。こども学科1年の北田美鈴さんの聖書朗読、心理学科1年生の中内優希さんによる「まばたきの詩人水野源三詩集」より、詩の朗読の後、宗教主事　稲山聖修先生の「わかちあおう　クリスマス」と題してお話があった。そして「3．2．1．点灯！」の合図のもと学長・宗教部長の長澤修一先生に点灯して頂いた。最後にツリーの下で、学生・教職員の皆さんと共に「もみの木」を合唱した。スクールバスの中からも沢山の学生に見守られた点灯式であった。

12月

クリスマス礼拝

12月15日（月）午後1時より大学（看護学部・食文化学部・心理こども学部こども学科）のクリスマス礼拝を澤山記念館チャペルで行った。奏楽は水間　泉先生。司会と詩の朗読は日本語表現科2年の小山内美美子さん。キャンドル点灯は、食文化学科1年の鬼頭真穂さん、杉山美帆さんにして

頂いた。聖書朗読は看護学科1年の安井静来さんと鳥井真奈さん。稲山聖修先生の「わかちあおう　クリスマス」と題したメッセージの後、梅花中学・高校の卒業生、栗山明弓先生・植田奈津子先生によるヴァイオリン演奏とピアノ伴奏があった。当日は約80名の出席者があった。

12月18日（木）午後1時より大学（文化表現学部・心理こども学部心理学科）のクリスマス礼拝を澤山記念館チャペルで行った。奏楽は水間　泉先生。司会は宗教部職員の奥西まゆみさん。キャンドル点灯は、日本文化創造学科1年の宮武夕希子さん、坂田芽華美さん。聖書朗読は情報メディア学科1年の金山紗耶さん、心理学科1年の西村美香さん。詩の朗読は宗教部職員の藤田亜弓さん。稲山聖修先生の「わかちあおう　クリスマス」と題したメッセージの後、栗山明弓先生・植田奈津子先生によるヴァイオリン演奏とピアノ伴奏があった。当日は約80名の出席者があった。

クリスマス礼拝・音と光のハーモニー

12月20日（土）クリスマスイブニング2014が開催された。午後1時から午後2時までの間、澤山記念館チャペルで、クリスマス礼拝が行われた。奏楽は水間　泉先生。早稲田摂陵高等学校ウィンドバンドのアンサンブル演奏の後、明治学院大学教授の佐藤アヤ子先生の「わかちあおう　クリスマス」と題して奨励があった。（3～4頁参照）今年もチャペルに大勢の方々に来て頂いた。

午後5時から5時20分まで、体育館で音と光のハーモニーが開催された。稲山聖修先生のお話し「わかちあおう　クリスマス」があった。早稲田摂陵高等学校ウインドバンドによる演奏があった。

1月 創立137年記念礼拝・澤山保羅先生墓前祈祷会

1月18日（日）午前10時から澤山記念館チャペルで創立137年記念礼拝が開催された。梅花中学校・高等学校宗教部長の青木直人先生より「先師の求めたるところを」と題してお話があった。出席者約150名。記念礼拝後、午後1時30分から大阪市設南霊園（阿倍野墓地）で、澤山保羅先生墓前祈祷会が行われた。「主から託される使命」と題して、大学・大学短期大学部宗教主事稲山聖修先生のお話しの後、有志による祈祷があった。最後に、学園長の原　忠和先生によるお墓の説明があった。出席者20名。

3月 卒業礼拝

梅花女子大学の卒業礼拝は、3月16日（月）に午前9時15分より、澤山記念館講堂で開催する。奨励は日本基督教団天満教会牧師の春名康範先生。出演は、梅花中学・高校卒業生、植田加奈子先生の独唱がある。ピアノ伴奏は梅花中学・高校卒業生、植田奈津子先生。お二人は姉妹。最後に学生・教職員による聖歌隊「リトル　ハーモニー・オリーブ」の皆さんによる合唱「旅立ちの日に」がある。

又、午後1時から午後1時45分迄、梅花女子大学短期大学部卒業および閉校記念礼拝が、澤山記念館チャペルで開催される。司会は、日本語表現科2年生の小山内芙美子さん。奨励は稲山聖修先生。出演は、植田加奈子先生の独唱がある。ピアノ伴奏は植田奈津子先生。式辞は学長・宗教部長の長澤修一先生。最後に学生・教職員による聖歌隊「リトル　ハーモニー・オリーブ」の皆さんによる合唱「旅立ちの日に」がある。

2014年度 チャペル・アワー 感想文より

さあ、共に讃美の歌を

川西合唱連盟理事長　堀田啓子先生

私は無宗教なので、キリスト教について初めて学びました。讃美歌も初めて歌うと思っていたのですが、「きよしこの夜」や「むすんでひらいて」、「蛍の光」も讃美歌のメロディーがあるのだと初めて知りました。遠くに感じていたキリストですが、思ったより近くでずっと感じていたのだと、今日の奨励で知ることができました。讃美歌は「神へ届けるためのメッセージ」であり、「アーメン」にもきちんとした意味があることも知れました。詞の意味を知り、讃美歌についても知り、讃美歌への思いが変わりました。様々な国の讃美歌は、その独特の詞、メロディーで、キリストは沢山の国で沢山の人々に愛され敬われているんだと思いました。

〝輝くいのち〟お二人の秀子さんに学ぶ

社会福祉法人・児童養護施設　救世軍希望館館長　前田徳晴先生

絶望に落とされたとしても、純粋に神様に祈りをささげ生きていけば、そして、自分がやり通せば希望が与えられるということを知りました。自分がやりたいことをやり通せば、その行為は報われるということを学び、これからより一層、頑張りたいと思いました。一人目の秀子さんの「良い事も悪い事も美しい事も醜い事も私の教科書」という言葉に少し共感したし、自分達がどれほど恵まれた環境にいるかを思い知り、そのことを一生大事に感謝しなければならないと思いました。

病児から滴るいのちの輝き

パンダ園保育士　佐原良子先生

今日のお話をお聴きして自分が健康で生きていることに感謝しないといけないと思いました。また、今も病気で苦しんでいる子ども達もいて、そんな中でも前向きに生きているという話を聞くと自分も頑張らないといけないなと思いました。

見えないものの大切さ

本学情報メディア学科　准教授　玉置好徳先生

玉置先生の〝あなたは障がいと聴いて何を思い浮かべますか〟というお話を聴いて少し自分の考えを改めました。目に見えないというのは分かりにくく伝わりにくい。自分が見ている世界だけが全てではないのだと感じました。目に見えるもの以外も分かり、考えられるようになりたいと思いました。

自分を低くすることは他者に希望を与えます

止揚学園リーダー　福井達雨先生・止揚シスターズ

「待っていてくれる」ということが、どれほど素敵なことか私は今まで「いってらっしゃい」と送り出してくれることが、とても支えになっていると気付きましたが、迎えてくれることも大切だなと感じさせて頂きました。止揚シスターズの先生方

の歌声、素晴しかったです。

しあわせは目にみえない
日本基督教団　大阪九條教会
牧師　津田一夫先生

心に残る深い話をありがとうございました。「しあわせは目にみえない」というのは、最初は暗い話だと思っていたのですが意味がわかると本当に素敵だと感じました。「ほほえみは希望」、「ほほえみは一瞬で消えるけど心には一生残ります」という言葉が心に残りました。

オルガン音楽を聴く
オルガニスト　所　俊夫先生

オルガンはピアノよりも音の種類があって、色々な音が出せて凄いと思った。静かな音や大きな音が混ざって、他の楽器では出来そうにない曲が弾けるのだと改めて思った。改めてオルガンだけの音を聴くと、心がゆっくり出来て、リラックス出来るのだと感じた。しんどくなったら、オルガンを聴きたいです。

「花の日」礼拝
花に寄せて～歌の力～
テノール歌手　竹内直紀先生

初めてテノール歌手の方の歌を聴きました。素晴らしかったです。感動しました。ユーモアも交えてお話してくださり、歌ももちろんですが素敵な時間を過ごせました。お祖父様のエピソードから歌の力は人を動かすパワーがあるのだと胸が熱くなりました。本日の奨励のおかげで以前より歌が好きになりました。

人生に愛を聞く
日本基督教団　磐上教会
牧師　成田いうし先生

今回の奨励を聞いて、相手を信じ互いに信じあうことは大事だと思いました。私も気に入らないことがあったり、つい人にあたって相手のせいにしてしまうことがあります。だから、自分に自信を持って相手のせいにせず、思いやれるようになりたいと思いました。

平和をつくりだす
日本基督教団　梅花教会
牧師　後藤　聡先生

戦争を実際に経験していない私達は、戦争のことについて話を聞いたり、資料を見たり、学んでも、それはただの「知識」になってしまう。口では「平和は尊い」と言ってはいても、次の日になると日常の煩わしいことに追われて忘れてしまう。年に数度でもいいから、日本が戦争をしてしまったこと、それにより多くの人々が亡くなり、悲しい思いをしたということを思い出し真剣に考える機会を持つことにしようと思う。

梅花学園の歴史を創った3人のエレガントな人々
本学総務部付資料室職員　安田行秀先生

「志を持つ・行動する・信頼を得る」梅花学園、女子大学を創られた先生方は、この3つを常に心に想っていたのではないかと思います。今日のお話を聞いて、よりこの梅花学園への親しみが深くなりました。

澤山保羅先生と彼をめぐる人々
本学園学園長　原　忠和先生

本当に澤山保羅先生は多くの人に支えられてきた人なのだと思った。そして多くの人から愛され尊敬された人だということを改めて感じ凄いなぁと思った。この素晴らしい人の建てた学校に来れて良かったです。

誰と食べるか
本学宗教主事　稲山聖修先生

会津若松、私も行ってみたいです。（会津に限りませんが、被災地には一度ボランティアで行こうと思っています）どこに行っても、どの国であっても、一緒に食べるということは人と繋がりをもたらすと思います。何を食べるかと考えてしまいますが、誰とということを考えていこうと思います。

白百合の君　山川登美子生誕135年記念『明星の歌人　山川登美子』
朗読家　馬場精子先生

明治の明は日と月。明星のお日さまである晶子。それに、月のような登美子。現代は明治よりずっと自由である。〝生きる〟〝生きる〟〝生きる〟まずは生き続けようよ…と今回の感想です。

花子とアンとキリスト教
本学宗教部職員　奥西まゆみ先生

村岡花子さんが女学校時代に勉学に励まれ翻訳家になる夢を抱かれてから、ミス・ショーと「赤毛のアン」の原書に出会ったことは素晴らしい出会いだと思いました。私もこの大学でこれからの授業を頑張ろうと思いました。

愛
本学宗教主事　稲山聖修先生

愛には3種類あるというのは、今まで考えたことのないものだった。そう考えると、私たちの人生すべて愛によってすすめられているのかと感じた。自分は今まで親や先生や友人から多くの愛をもらっていたけれど、それを貰うことが当然だと思っていた。これからは自分が愛を与えられるようになりたいと感じた。

行ってみないとわからない
日本基督教団　扇町教会
伝道師　山下壮起先生

私は、「行ってみないとわからない」という言葉がすごく印象に残った。行ってみないとわからない。良い方向に向かうのか、悪い方向に向かうのか。それが怖くて一歩踏み出せないことが多くあるけれど、一歩踏み出さないと何も変わらない、何もわからないというのも、確かに事実だと感じた。

喜びはどこに
日本基督教団　大阪西淀川教会
牧師　森口あおい先生

子供の言葉鋭くておもしろかったです。将来自分に子どもができたら自分も言われちゃうのかなと思いました。人生という長いスパンで考えて自分も喜びに満ちた人生を過ごしたいと思いました。そして、誰かを支えられるくらいに優しく強い女性になりたいです。

となり人となるために
日本基督教団　磐上教会
教会員　馬場暁子先生

私は人付き合いが苦手で、相手が自分を受け入れてくれないと感じると、少し自分から距離をおくクセがついている気がします。隣人愛の実践はなかなか現代っ子には難しい気がしますが、自分から進んで人と関われるようにしていきたいです。

今そこにある恵み
日本バプテスト同盟　池田バプテスト教会
牧師　土平正治先生

今、自分ができていること、当たり前だと思っていることが世界では普通じゃなかったり、日本にいたら気付かないことって沢山あるし、もっと自分の世界を広げたいと思いました。日々色んなことに感謝しないといけないですね。

あなたにとって大切なものは？
本学非常勤講師　此枝洋子先生

自分にとって必要ないものを選ぶことに

よって、自分にとって大切なものが見付かると思う。最近では色々な便利なもので溢れかえっているが、それがあることによって、自分を押さえつけていることを知るべきだと考えた。

力はすでに備えられている
日本基督教団　大阪淡路教会
牧師　山田有信先生

今日の奨励を聞いて思ったことは、自分らしさとか、何かに耐えて生きていく、考えることの力があるということがわかった。私が思うには、辛い何かを耐えて、その力をつくりだそうとしてる人は強いと感じた。

赦しに出会う
日本バプテスト同盟 我孫子バプテスト教会
牧師　熊谷　稔先生

自分は毎週教会に通っているわけでも、イエスや神を心から信じているわけでもないけれど、聖書を読み、お話を聴くこのチャペル・アワーの時間は、ほっとできる。自分の弱さや悩みを見つめ、「これでいいのだ」と感じられるからだと思う。それが「赦し」なのかなと感じた。

生かされることの奇跡～音楽からの導き～
京都市交響楽団
ヴァイオリニスト　加藤　香先生

ヴァイオリンの演奏は生で観賞なんてしたことなかったので、新鮮だった。聴いていると疲れがとれた。又、生かされていること生きている幸せを大切にしたいと思った。

主にある休息
日本基督教団　大阪西淀川教会
牧師　森口あおい先生

時に、もっと頑張らなければ、もっともっとと思ってしまいますが、もう十分だと思うことは大事だと思いました。自分を認めることは大切なことで、一息つくことで、また歩いて行けると思います。

喜びは歌となって～アドヴェント、クリスマスの讃美歌を歌う～
川西合唱連盟理事長　堀田啓子先生

たくさん、歌を歌ったのは久しぶりでした。また、讃美歌をわかりやすく解説してくださったので、嬉しかったです。学園歌は、100周年の際につくられたと初めて知りました。

与えられる人になりましょう
本学食文化学部助教
北村伊都子先生

私はいつも自分たちのことばかりで周りのことを考えていることはあまりしていませんでした。また、自分が恵まれていることを感じていませんでした。周りの人のことを考えて行動することを怠っていました。改めて、①知る ②感謝する ③行動するということを頭に置き行動していきたいです。

茨木ガーデンキャンパス50年
～田中格太郎・とらご夫妻からのめぐみ～
本学宗教主事　稲山聖修先生

改めて梅花学園が愛された学校であることを感じました。自分の為にばかり生きてはいけないなと思わせられます。今年はすごく記念すべき年なんですね！

それぞれの想い
社会福祉法人・児童養護施設
レバノンホーム施設長　栗本一美先生

「人はやってもらったことしか人にできない」ということは本当だと思います。自分もまたこれまでしてもらったことを思い、子ども達にしてあげようと思います。子ども達が豊かになり、またそれを誰かに伝えられるよう関わりたいと思います。

牢獄の中で
同志社国際中高嘱託講師
高田　太先生

今日の奨励を受けて思ったこと。ヨハネが牢獄の中で不安で孤独でイエスに来るべき方は誰なのかと、イエスに聞くところは誰にだってそういう気持ちがあるんだと感じた。

最も大いなるもの
日本基督教団　摂津富田教会
牧師　大谷隆夫先生

日雇い労働には色々問題や課題があるということは中・高での授業やテレビで聞いたことがあった。しかし、時期によって仕事量が全然違うことなどは初めて知った。自分は知っていると思っていても、知らないことはまだまだあるのだと感じた。もっと視野を広げねばと思いました。

クリスマス礼拝
わかちあおう　クリスマス
本学宗教主事　稲山聖修先生

アメリカのクリスマスでは、ケーキを家族分と一片余るように切り分ける習慣があったことを初めて知りました。その発祥となっているのが、教会がどんな時でも貧しい人々に温かい食べ物や飲み物を用意していることだと知り、日本との違いが如実に表れていると思いました。マタイによる福音書2章1節～8節で、救世主の為に地位や財産を捨てた祭司長達や律法学者のキリストに「砕かれた人々」と地位や財産にしがみついたヘロデ王の人間らしさがよく表れていたと思います。クリスマスをわかちあうということは、各々が大切なものを守っていくということであり、そのモノは良し悪しは当人にゆだねられるものではないかと思いました。

自分の意志で生きるということ
本学総務部財務グループ
職員　木村　馨先生

自分も以前何かの本で「大人になるということは自分の言ったこと、したことの全てに責任を持つということ」だと読んだ。大学に入って、自由な雰囲気に身を置き、アルバイトも始めて本当にその通りだと日々感じている。今までは何か失敗してもどこかで親や先生が守ってくれていたけれど、大人になるということは全ての責任を自分一人で負うということ、つまり責任の取れないことはしてはならないと感じた。

夢で見たこと
本学宗教主事　稲山聖修先生

水仙の花言葉を初めて知った。「神秘」という言葉はぴったりだとも思った。「夢」というのは本当に不思議なものだと思う。医学が発展していなかった時代だともっと不思議で神秘なものだったんだろうなと思う。夢を信じる人達は信仰心もすごかったんだろうなと思う。

空とぶUSBメモリー
本学宗教主事　稲山聖修先生

目の前のことに誠実に取り組む、それは簡単そうで、とても難しいことだと思う。欲、誘惑など、沢山のことが私達の周りを取りまいているけれど、自分がすべきことを見極め、誠実に行動することで、後悔のない毎日を送れるし、何かが起こった時でも、どこかに救いを見つけられるのかと感じた。

終わりは新たな始まり
本学宗教主事　稲山聖修先生

「国破れて山河あり」ではないけれど、全てを失った時、そこに残るものが、その人本来のあるべき姿であり、真の姿なのかと感じた。今日でチャペル・アワーはおしまいですが、1年間、本当に安らげる時間を与えてくださり、ありがとうございました。

２０１４（平成 26）年度　チャペル・アワー講師一覧

（敬称略）

月曜日　３講時　大学
看護学部・食文化学部・心理こども学部こども学科

月	日	奨励題	奨励者
4	14	梅花女子大学にようこそ！	稲山聖修
	21	さあ、共に讃美の歌を	堀田啓子
	28	“輝くいのち”お二人の秀子さんに学ぶ	前田徳晴
5	12	病児から滴るいのちの輝き	佐原良子
	19	自分を低くすることは他者に希望を与えます	福井達雨・止揚ｼｽﾀｰｽﾞ
	26	見えないものの大切さ	玉置好徳
6	2	花に寄せて～歌の力～	竹内直紀
	9	気がつけば、そこに	津田一夫
	16	オルガン音楽を聴く	所　俊夫
	23	平和をつくりだす	後藤　聡
	30	梅花学園の歴史を創った３人のエレガントな人々	安田行秀
7	7	人生に愛を聞く	成田いうし
	14	澤山保羅先生と彼をめぐる人々	原　忠和
	21	花子とアンとキリスト教	奥西まゆみ
	28	白百合の君　山川登美子生誕 135 年記念『明星の歌人　山川登美子』	馬場精子
9	22	愛	稲山聖修
	29	行ってみないとわからない	山下壮起
10	20	あなたにとって大切なものは？	此枝洋子
	27	赦しに出会う	熊谷　稔
11	3	主にある休息	森口あおい
	10	となり人となるために	馬場暁子
	17	喜びは歌となって～アドヴェント、クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田啓子
	24	与えられる人になりましょう	北村伊都子
12	1	それぞれの想い	栗本一美
	8	最も大いなるもの	大谷隆夫
	15	わかちあおう　クリスマス	稲山聖修
	22	自分の意志で生きるということ	木村　馨
1	5	夢で見たこと	稲山聖修
	19	空とぶＵＳＢメモリー	稲山聖修
	26	終わりは新たな始まり	稲山聖修

木曜日　３講時　大学
心理こども学部心理学科・文化表現学部

月	日	奨励題	奨励者
4	10	梅花女子大学にようこそ！	稲山聖修
	17	さあ、共に讃美の歌を	堀田啓子
	24	“輝くいのち”お二人の秀子さんに学ぶ	前田徳晴
5	1	病児から滴るいのちの輝き	佐原良子
	8	見えないものの大切さ	玉置好徳
	15	自分を低くすることは他者に希望を与えます	福井達雨・止揚ｼｽﾀｰｽﾞ
	22	しあわせは目にみえない	津田一夫
	29	オルガン音楽を聴く	所　俊夫
6	5	いちばんになりたいか	後藤　聡
	12	花に寄せて～歌の力～	竹内直紀
	19	人生に愛を聞く	成田いうし
	26	梅花学園の歴史を創った３人のエレガントな人々	安田行秀
7	3	澤山保羅先生と彼をめぐる人々	原　忠和
	10	誰と食べるか	稲山聖修
	17	白百合の君　山川登美子生誕 135 年記念『明星の歌人　山川登美子』	馬場精子
9	18	愛	稲山聖修
	25	行ってみないとわからない	山下壮起
10	2	喜びはどこに	森口あおい
	9	となり人となるために	馬場暁子
	16	今そこにある恵み	土平正治
	23	力はすでに備えられている	山田有信
	30	生かされることの奇跡 ～音楽からの導き～	加藤　香
11	13	喜びは歌となって～アドヴェント、クリスマスの讃美歌を歌う～	堀田啓子
	20	与えられる人になりましょう	北村伊都子
	27	茨木ガーデンキャンパス 50 年 ～田中格太郎・とらご夫妻からのめぐみ～	稲山聖修
12	4	牢獄の中で	高田　太
	11	最も大いなるもの	大谷隆夫
	18	わかちあおう　クリスマス	稲山聖修
1	8	それぞれの想い	栗本一美
	15	夢で見たこと	稲山聖修